

「こどもの日」あるべき姿は

株式会社日本総合研究所
調査部上席主任研究員 池本 美香

今日はこどもの日。なぜ、こどもの日は男子の成長を祈る端午の節句で、女子の幸福を願うひな祭りは祝日でないのかと思い調べてみた。江戸時代には季節の節目である五節句として、3月3日、5月5日ともに祝日であったという。明治時代に五節句の祝日が全て廃止となった後、1948（昭和23）年に「国民の祝日に関する法律」が施行、端午の節句だけがこどもの日として祝日になった。

この祝日法制定の過程では、国会での半年以上の審議に加え、政府も新聞やラジオ放送で広く意見を求め、世論調査も実施した。世論調査の結果では、適当な祝日として、端午の節句よりもひな祭りを選んだ人の方が多かったのだが、なぜか端午の節句が祝日になった。さらに、この法律ではこどもの日について「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」と書かれている。当時はまだ男子優先、子育ては母親の仕事という時代だったからか。

昨年12月に閣議決定された「こども未来戦略」では、共働き・共育ての推進という方針の下、男性の育児休業取得率を2030年に85%へ引き上げる目標が掲げられた。今の時代、感謝するとすればその対象は、母だけでなく父、さらには祖父母、保育者、教師など子どもに関わる人々全てになろう。

海外にもこどもの日がある。54年の国連総会において、11月20日が「世界子どもの日」に定められ、加盟国にもこどもの日の制定が求められたためである。いつにするかは各国に任されたが、11月20日とした国が多い。この日は国連総会で、子どもの権利宣言（59年）と子どもの権利条約（89年）が採択された記念日ともなっている。

世界子どもの日は、国際的に連帯して、子どもの福祉向上を図ることを目的とする。国連児童基金（ユニセフ）は、子どもによる子どものための行動の日と位置付け、子どもが自分たちにとって重要な問題について声を上げる場を設けている。

英国では、子どもたちが外で過ごしやすい時期にと、こどもの日は5月の第2日曜日に設定されている。2014年から民間団体（National Children's Day UK）が、この日に子どもの問題を広く知ってもらい、子どものための資金を集めるなど、子どもの権利、自由、ウェルビーイング（幸福）の実現を図っている。

各地でのイベント開催を呼びかけ、共通のロゴを使用し、ハッシュタグ（検索目印）を使ってイベントの情報を発信する。環境問題の改善を願う歌を子どもたちが自ら作って歌う動画（SOS from the Kids）や、主要な子ども団体が連携して子どもの声を政策に反映させるキャンペーン（Children at the Table）など、子どもの訴えや支援の必要性などが可視化され、運動の推進力となっている。

日本でも1948年、祝日法の国会審議において、こどもの日を単なる休みでなく、子どものための大きな社会運動の日とすることが提案された。国旗とは別の旗を定めて飾る、こども

の日の歌を作る、子どものための事業に企業や個人が寄付する、新聞やラジオで特集するなど、具体的な案も示された。しかし、現状は大型連休の一日で旅行やレジャーに出かける人も多く、子どもの声を聴き、子どものための運動を推進する日には必ずしもなっていない。

5月5日は51年に日本で児童憲章が制定された日でもある。新しい児童観、児童福祉の根本理念を定めた児童憲章は、各界からの代表者による児童憲章制定会議の2年余の討論を経て制定された。もともと、後に国連で採択された子どもの権利宣言や子どもの権利条約が子どもを権利の主体と位置付けているのに対し、児童憲章では子どもが保護されるべき存在とされている。

今年は日本が子どもの権利条約を批准してから30年、「子どもの権利条約の精神にのっとり」と明記したこども基本法施行から1年になる。しかし、いまだに子どもの権利を知っている子どもが4割しかいないという調査結果が4月に公表された。女性から見て、端午の節句がこどもの日なのもやはりふに落ちない。思い切ってこどもの日を11月20日に移し、子どもの権利を周知して子どもの声を聴く日にしてはどうだろうか。

信濃毎日新聞 2024年5月5日付「多思彩々」に掲載されたものをもとに作成